

会 議 録

会議名	第4回青梅市市民ホールに関する懇談会		
開催日	令和4年5月26日(木)	場 所	市役所本庁舎3階 議会大会議室
時間	午後2時～午後4時まで		
出席委員	委員:伊藤裕夫委員、松井憲太郎委員、米田正彦委員、橋本研委員、森本真也子委員、小澤順一郎委員、久我匠委員、根岸英美委員、岩永英文委員、森田美子委員		
傍聴人	9名		
報道等	-		
配付資料	○会議次第 ○【資料】懇談会意見まとめ		

会議概要

発言者	会議のてん末・概要
(事務局)	<p>(1 開会)</p> <p>まだお見えになっていない方がございますけれども、定刻でございますので始めさせていただきますと思います。</p> <p>本日はお忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。</p> <p>前回の開催より、新型コロナウイルスの関係等により、開催が延期となってしまいましたこと大変申し訳ございません。また、委員の皆様には書面にて新年度への懇談会継続についてご同意をいただき大変ありがとうございます。引き続きどうぞよろしくお願い致します。</p> <p>なお、本日、「山本委員」「須田委員」におかれましては欠席の御連絡をいただいております。また、小澤委員におかれましては途中退席のご連絡を頂戴しております。</p> <p>本日、会議の傍聴を希望される方がおりますので、「青梅市市民ホールに関する懇談会傍聴規程」則り、傍聴人が入室しております。</p> <p>それではただいまより、第4回青梅市市民ホールに関する懇談会を開催いたします。</p> <p>会議に先立ちまして、資料を事前に送付させていただいておりますので、ご確認をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【次第】 ・【資料】 前回までの懇談会意見のまとめ

	<p>また、事前配布いたしました資料について、文字が小さいとのご指摘をいただきましたので、本日、机上に修正した資料をご用意いたしました。内容につきましては事前に配布したものと齟齬はございません。</p> <p>資料については大丈夫でしょうか。</p> <p>なお、本日、皆様の卓上にマイクをご用意しております。お手数ではありますが、ご発言の際はマイクのボタンを押していただいてからの発言をお願いします。また、発言が終了した際は再度マイクのボタンを押してください。よろしくお願いいたします。</p> <p>それではお手元の懇談会次第に沿ってここからの伊藤会長からご挨拶をいただき、その後の進行を会長の方でよろしくお願いいたします。</p>
(会長)	<p>半年間、コロナの影響で空いてしまいました。事務局とも打合せをしていましたが、2つお約束をしました。1つは半年経ったので、何が課題であったかもう一度共有しあって行こうと、そこからスタートしていかないと。当初はワークショップで様々な声を聞かしていただいて、報告書にまとめて行こうと思いましたが、半年空きましたので、ワークショップは次回にしまして、今日は一種の仕切り直しで今まで3回、どのような話をしてきたのか確認しつつ、その中で新しい施設について、イメージのすり合わせ、特に想いや、コンセプトを確認し合って進めて行こうと思います。今日の議論で出たものをもとに、なるべく忘れないうちに、幸い、オミクロン株が少しずつ減っているので、危険性が少ないことも見えてきているので、月1程度、本日も含めて4回懇談会を実施して9月ぐらいには報告書をまとめて行こうと思います。後で時間があればどのような報告書にしていこうか触れたいと思いますが、まずは資料に基づきまして、今まで議論し合ったことを事務局で整理しておりますので、事務局から説明をお願いします。</p>
(事務局)	<p>資料の説明をさせていただく前に、前回の本懇談会の開催から、かなりの期間が経過しておりますので、第3回の懇談会までの経過につきまして、少し説明をさせていただきます。</p> <p>また、今回が、第4回目の開催でございますが、次回の第5回をワークショップ形式で、その後、2回の開催ということで、今年度は、本日も含めまして、4回程度の開催を予定させていただきます。</p> <p>それでは、前回までの経過でございますが、まず、第1回目としまし</p>

	<p>て、昨年4月28日に開催をさせていただき、本懇談会の設置等に関する各種の規定関係から、これまでの市民アンケート調査をはじめとした経緯、また、本事業スケジュール等について、事務局から、報告・説明をさせていただきました。</p> <p>その後、第2回目を、昨年7月19日に、本市民ホール等の整備計画の敷地の一画にあります福祉センターにおいて、第3回目を、11月1日に、青梅駅の西側、旧青梅市民会館跡地に新設されました文化交流センターで、それぞれ、開催をさせていただき、各委員の皆様の様々な視点から、御意見を頂戴してまいりました。</p> <p>こうして、各委員の皆様から、お出しいただいた御意見を、事務局におきまして、それぞれカテゴリー別にとりまとめましたものが、お手元のA3サイズ横の両面印刷してございます資料でございます。</p> <p>表面の左上、「コンセプト」から「文化振興」、「ホール形態・規模」、「機能」から裏面に行きまして、「建設」、「立地状況」、「活用方法」、「運営・稼働率」、「広域連携」、「付帯機能」、「コスト」までに、区分を整理させていただきました。</p> <p>本日の懇談会では、改めて、この資料内の御意見を確認いただきますとともに、再度のホールに対します皆様の想いやコンセプトについて御議論をいただき、ご意見を頂戴したいと存じますので、よろしく願いいたします。</p>
(会長)	<p>便宜上、資料では分類をしております。必ずしも一つの項目ではないかもしれませんが、この資料を見ながら、コンセプトですとか文化振興、機能のような総論を軸に議論をして、形態や規模、運営のような各論については次回のワークショップにて具体的に議論して行こうと思います。ワークショップと明確に分けることもできませんので、各論の補足やご意見なども本日いたいても問題ありません。</p> <p>半年経っているなので、確認も含めてご意見をいただきたいと思えます。</p> <p>本日、二人の委員から事前に提出したい資料を預かっておりますので、まずは全体のポジションを表した資料がございますので、ご説明お願いいたします。</p>
委員	<p>この資料は青梅市で行われているイベントやライブスポットを实际どこでやっているのか、線路図をベースにまとめてみました。</p> <p>青梅市の中に青梅線が通っています。その中で河辺駅から御嶽駅が青</p>

梅市になります。前回いただいた中心市街地活性化エリアがどのような位置かという、青梅駅と東青梅駅を囲んだ位置になります。この位置を覚えていただいて、次が定期的開催されているイベントです。抜けているものもありますが、民間が行っているイベントになります。アートフェスティバルやマルシェなど、どこでやられているのか集めると、一部若い人がたんぼマルシェを木野下でやっているが、青梅駅と東青梅駅との間でほとんどがやられている。このようなことがこの資料でわかってきます。

次が青梅市にある文化施設になります。どこまでが文化施設にいれていいのかわからなかったのですが、美術館、博物館、図書館を入れています。図書館に関しては中央図書館のみです。市民センターに併設している図書館はオミットしております。このように地図でみると青梅線に沿って分散してあります。

次に音楽に関する施設をプロットしてみますとこれも青梅駅と東青梅駅の間となります。現実的には小作にもありますが、今回は小作駅は羽村市ということで省いております。青梅市のライブスポットで特徴的なのは、坊主バー、また、西の方でお寺でイベントをやっています。坊主バーでは有名なプロのジャズベーシストのイベントを定期的開催しています。そのような土場があるまちだということを皆さんに認識していただければと思います。その中で青梅市を私がゾーニングすると最後のページのような、東からいくと新町、一番東の端ですが、ここは住宅や人口が増えているエリアです。河辺駅の北口側が新市街としてイオンが来たり、今の商売のまちがここにきています。線路を挟んで反対側、これが合同庁舎から市役所に至るいわゆる政治が動いている場所、以前、会議所の方から会議施設がほしいと言われたのもこのエリアでとのことだと思います。

東青梅と青梅の間が私に言わせると旧市街、市が活性化させようとしているエリアだと思います。それから西は緑と観光といったエリアだと思います。それをいかに融合してホールなどの施設に結びつけていくかが今回の課題かと思っております。

ありがとうございます。ゾーニング等を見るとイメージができますし、ライブスポットや文化施設を地図上に落としただくと面白いものが見えて来ると思います。感じたのが、博物館、美術館は青梅市の柱の一つが観光、自然ということもありまして、西の方で充実してまして、ホール系統はたまぐーを含めて弱いかと思いました。一方で、民間が幅広く色々な活動が行っていると感じました。イベントに関しても市が関わっているものよりも民間のものが非常に活発であることもお聞きし

会長

	<p>ております。そこも含めまして、このゾーニングでいうところの政治ゾーンに新しくできる施設、あるいは、旧市街の東側の端に政治ゾーンとの接点に新しい施設ができるといった形で見ることができるのではないかと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>皆さんからの感想はいかがですか。</p>
<p>委員</p>	<p>旧市街に人や活力がなく、ただ、場所や観光資源で言えば良いものがそろっていて、先ほどライブハウスの話がでましたが、自然や観光を抜くと古き良きといったものが青梅のイメージなのかと思います。文化の面で、ちゃんとした定義付けができていないので、ホールを作るうえでも、青梅としての文化が何なのか定義付けた上でやるのがいいのかなと思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>青梅と東青梅の間がパツとしないので、そこをハブとして青梅の文化や色々なものを集まるようなホールになるといいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。私もこの施設が旧市街と新市街の結びになるのではと思います。旧市街は青梅らしいレトロな雰囲気をもって、新市街は商業ゾーンとして賑わいや買い物等で住宅地からも人が出てきて、そこがうまく交わると青梅の発展につながると思いますが、委員はたまぐーセンターで活動されていて、この結びつきについてご意見はありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>旧市街の西端がたまぐーセンターであって、そこには新市街の方や若い人も参加されてます。たまぐーセンターがまちの人が交わるような形にどのように活用していくかコーディネーターとして考えています。旧市街の両端に高校がそれぞれあります。このまちに来る高校生がこの施設で交われたりとか、高齢者の方たちとかも、イベントがなくても人が集まっている場所がここにあるといいなと思って活動しているので、旧市街と新市街がつながるといいなと思います。政治エリアについて青梅を感じてホッとするような場所になるといいなと思います。その象徴的な場所にホールがなれば面白いと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>政治というか行政サービスのエリアになりますかね。先ほど発言のありました高校も若い人たちがいるところなので、この施設のなかで活性化できるかと思いました。</p>

委員	<p>行政サービスという言葉聞いてまさしくその通りだと思いました。会議所にて市の流れを感じていますが、中央図書館が河辺に移転したときに、旧青梅市街の人たちが大きいものはすべて東青梅と河辺に行ってしまったと、消防署も警察も、とうとう図書館もいってしまい、残ったのは会議所だけだとなりましたが、その後、地域的な色分けができてまして、青梅も発展のしかたが地域的に違くと改めて思いました。旧市街は会議所も関わっていますが、創業支援センターや空き店舗不動産など、外部の人が多いですが、青梅で起業しようという流れが出てまして、シャッター街になっていくものがここでページが変わった感覚があります。旧市街は行政サービスや様々な方が同時に集まる施設よりは、個人の小さい魅力あるお店が集積して、あそこに行くとか何か面白いねといった形に発展していけばと思います。逆に東青梅から河辺にかけては、行政サービスの発展を目指す青梅市全体として有機的に未来が見えてくるのかなと思います。</p>
会長	<p>では次の委員、どうですか。</p>
委員	<p>青梅の駅の改札口を出た後に観光案内所がありまして、駅から降りてきた人が赤塚不二夫記念館はどこですかとか、映画の看板はどこにあるのですかと今も聞かれて、それを楽しみに青梅に来られる方がいらして、でもそれはないのですと言うのがっかりされて、赤塚不二夫記念館にしても看板にしても昭和のまち青梅を象徴するものでそれがなくなってしまったのは惜しいなど。そういったものを行政が後押しをして継続できなかったのかなと、観光の目玉だと思ってました。理由はあるとは思いますが、継続できなかったのかなと思います。先ほどから話があったように青梅の駅周辺はお店が閉まって空家になったところに若い人達が面白いお店を作って結構繁盛している。まちの駅も移転して広くなってなかなかいいなと思っていますが、そこらへんがパラパラ動いている感じで、方向性とか考え方をあれするともっといいものになるかなと思います。青梅はそういった意味では魅力があると思いますので、後で青梅の文化芸術条例を作ったり、市役所の中に文化芸術を扱う部署をほしいといったこともお話しますが、結局、市役所の中に受け皿になってもらう部署がないことがとってももったいないことをしていると思います。この市民ホールを建てると同時にそういったことも併せて考え直せばいいなと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。次の委員で今まで青梅の方の意見を聞いたり、全国の文化施設をたくさんご存じだと思いますので、感想なり、コ</p>

委員	<p>メントをいただきたいと思います。</p> <p>まずは委員作成資料を見させてもらいまして、ビジュアルに地域の活動や、文化施設、ライブスポットというものの配置がわかりまして、最後の文化や行政のゾーニングのコメントいただきまして、地域のつながりをフォーカスしていくことには共感いたしました。これまで懇談会に参加して、ホールにかけると市民の皆さんの強い想いを感じており、かなり期待されているホールなのだなと思いました。</p> <p>私からの意見は、次回になるのかもしれませんが、先にお話しておきますと、2つすこし具体化した方がいいと思いますが、一つはコストです。いただいた資料を拝見して、また、懇談会に参加して感じることは、おおよそ3つの方向性があるのかと思います。一つは本当にハイクオリティなひな壇のホールで、そこにスタジオや練習場などの機能を入れるハイスパックなもの。もう一つは平土間にして、音響的なクオリティは次としてそこに付属する施設を作る。そして3つめは、音響的にはそこそこにして、この議論にもありますが、青梅の特徴である、木を活かしたホールを作っていくと。私は実務の人間ですので、3つの方向性があるのかと思いますので、このどこに向かっていくのか行政からも示してもらって、予算的にどの程度のグレードを目指すのかそこで方向性を絞っていく中であと3回ワークショップの中であつたほうがより議論が建設的になると思います。</p> <p>もう一点が駐車場です。建設計画では、具体的にホールを作る場合は車に依存することが割合大きい地域かと思いますので、駐車場がおおよそどのようななるのか、具体的かもしれませんが、ただ、ホールの規模や、機能など複合化するとコストが上がるので、最初に考えた方がいいかと思いました。その中で議論したほうがいいと思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございます。次回のワークショップでそこらへんも考慮して議論したいと思います。副会長、今までの話を受けて、青梅市全体の中での文化施設の位置付けなんかご意見あればお願いします。</p>
副会長	<p>これまでの懇談会でもでしたが、青梅市の形がイノシシで、この青梅線の流れが、食道から胃腸にかけてなのか、背骨なのか、そこにまつわって、現在進行形で色々なエリアが分かれてきていて、市全体の関係性の中で、行政エリアに入る新ホールがどのような役割なのかということイメージしやすいものになっています。その一方同時に思ったことが、中心軸である青梅線に沿ってエリアがあつて、活動が見えますが、特に自然になるともっと広い範囲になると思います。初回の懇談会</p>

から地図等を見てみると、この中心軸以外が広いじゃないですか。外側の人間なので、このゾーニング以外にどのような人がいてどのような生活を送っているのかイメージが全然届きません。この3月でキラリふじみを退職して、12年間仕事をして富士見市は青梅よりはるかに小さい10km²のまちですが、何も無いところに市役所があってその隣に文化会館があって、そこから全市の暮らしている人を思い浮かべるのが大変難しかったです。文化施設として考えた場合、極端に言えば、市の実体的なものから孤立している形で文化施設があって、現実的にも、農業的なエリアや旧市街地や新興住宅地と文化施設が実際に関係がなかったようなことがありまして、どのように環境を作るかが課題でありました。今まで議論があったように、行政サービスのエリアに新しいホールができるということで、それをゾーニングに分かれた単位に対して、どのように関係を作っていくか、あるいは交流を呼び込んでいくかがあると思いますが、もう一つさらに基盤になることが、青梅市全体に暮らしている人とどのように文化施設を結びつけていくのか。それは単に生活だけでなく、観光であったり、商業であったり、農業だったり、色々な要素があると思いますが、それを新しい施設にどのように紐づけていく、新しい関係性を作ることが重要であると改めて思いました。ちょっと話が先行するかもしれませんが、事務局にこれまでの議論をまとめてもらい、読んでみまして、会長を含めて打合せをさせていただきましたが、これまでの印象では文化施設の役割についてあまり議論が深まっていないのではないかとこの印象がありましたが、実際に資料を読んでみて、個別の部分に関しては議論が薄いところもありますが、本日、会長が言われた、今日のメインテーマであるコンセプトなどはある意味出尽くしているぐらいに重要な要素が出ていると思いました。衝撃的にインパクトを覚えたのが、「青梅という地域は西多摩の中心捉えられていた時代があると、現在も合同庁舎などがあり中心としてある」との意見がありましたが、アメリカをもう一度偉大にはありませんが、変な意味ではなく、青梅が西多摩地区で果たしてきたある種の中心軸としての役割をこの施設を作ることによって取り戻すような気概やビジョンをもってもいいかと思いました。すでにその要素として皆さんの意見から多く出てまして、一つは自然という環境ですよね。まとめてもらった地図にも自然と都市・コミュニティ住民の様々な活動が地続きでつながっているようなまちで、東京の中心から見ると都会的なものと自然環境が地続きで融合しているようなまちで、自分が暮らしているまちや、仕事をしてきた富士見市にくらべるとものすごい文化的な資源が蓄積されているまちだと改めて思いました。重要なコンセプトとして自然や芸能などがある、芸能はもともとは農業があって、自然の中で形づくられた文化

	<p>が未だに若い人達からもお囃子などでやられてたり、そういったものがこの施設を作る中で改めて財産として活かしていくことがこれまでの議論ではつきりとは浮かび上がっては来ませんでした。今日、資料を見ながら皆さんと議論をしてこれまで話してきたことをさらに形にしていくことで、全体のコンセプトや文化振興が考えられるのではないかと思います。</p> <p>それと、青梅にすでに存在している、青梅が持っている資源で、市民の活動であったり、自然環境がありますが、もう一つは外側とか、文化施設運営に関わる専門性、おそらく今、青梅に蓄積されていないものをどのように呼び込んで、すでにあるものと融合させていくようなことを残りの懇談会で触れていけばいいと思います。例えば運営についても、市民との協働が出てますが、それ自体は素晴らしいことだと思いますが、市民の力を活かすときは、外部の力や専門性が必要になってくると思います。そのようなことが重要であることは言うておいた方がいいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>今の意見の後半の方については、本日の後半で話をしようと思っています。</p> <p>委員にて感想等がありましたらお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>旧市街の繭蔵さんとか cafe は女性では話題になります。青梅は神社やお寺がかなりありますが、御朱印を集めるようなものを立川駅に貼ってあるポスターで見まして、青梅らしいと思いました。</p>
<p>会長</p>	<p>今までの議論で出たものが今回の施設どのような役割を果たすのがおぼろげながら見えてきたと思います。私もここが行政サービスの中心地ですが、もう少し広い目で見ると、旧市街地と新市街地の結ぶ合流点になると、行政サービスの場所は必要だから行く場所で、それに対して、行きたいから行く、楽しいから行くという方向に変わっていくと、その両者をつなげることができると思います。言い方を変える、青梅市の昔からある古い文化と、新しく住んできた、若人たちや、子どもたちも含めた新しい動きがとの接点となって、新しいものが生まれるように、この場所が行政だけでなく、プラスアルファになるようなものが求められて、今回、この場所の作るようになるのかと思いました。</p> <p>このコンセプト、目的のようなことについて、委員より別に資料が用意されていますので、お願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほど、青梅駅の近くに若い人たちが新しいお店を開いている話が出</p>

ましたが、だいたいコンセプトは若い人向けで、年配者はなかなかいけない。青梅は交通の問題がありまして、たまぐーや旧青梅市民会館でのチラシでもできるだけ公共交通機関をご利用くださいと書くのですが、公共交通がないのです。先ほど委員からも出ましたが、新町から青梅に直接いけるバスがありません。河辺の駅で止まるものを多く、羽村市のように市内の循環バスがあるわけでもなく、厳しい部分がありました。今回の建つ場所は駅からも近いですので、電車まで来てもらえれば降りたらすぐになると思います。青梅は線路から外れた場所が多く、ほとんどバスが走っていません。1日に何本もありませんし、奥のほうに行けば手を上げれば止まってもらえるようなものもあります。その人が、行ってみたいと思えるようなホールになればいいと思います。

今配ってもらったメモです。半年たつと忘れていて、ここ1月色々なことを思い出しながらまとめて見ました。4つ考えました。1つ目は私の市民ホールに対する想いです。2つ目は文化団体連盟の市民ホールに建物も含めてこんな機能がほしいというものが出ました。3番目には青梅市の文化芸術活動を促進していくために、青梅市に文化芸術条例がほしいと思いました。その中には市の中にそういったものを司る部署もほしいということがあります。それと、新市民ホールの運営方法について今から考えていかないとできてからでは遅いとおもいますので、そこらへんも含めて考えてまいりました。

まず1つ目は市民ホールへの想いです。とにかく青梅市民の豊かな心を育む場所ということで、1つ目は芸術文化活動を創造する場所、市民が主体となって芸術文化活動を推進していく場所ということで、今、青梅市の芸術文化活動や、各文化団体によるコンサートだとか、練習成果の発表など、たまぐーの多目的ホールでかなり無理なことをしながらやっています。もう一つは展覧会や展示会です、たまぐーでもあるのですが、実際に書道をやっている方が文化団体連盟の会長をしていますが、そこではできない。吊るレールなんかもありますが、それが全く機能しない、困っている。自分たちで枠組みを10万円かけて作ると言っていました。後は、未来に羽ばたく芸術家の育成ということで、これからの若い人たちが育っていく。これはクラシックということではなく色々な分野があると思いますが、そういったものを育成できる場であってほしい。2つ目は芸術文化に出会う場所ということで、多様な文化芸術、それから本物の文化芸術に触れる機会を作る。本物の文化芸術ですので、ある程度のホールそのものの機能が問われると思います。もう一つは市民が生活の中で気軽に市民ホールに足を運んで文化芸術に触れ合える場になるといいなと思います。3番目です。文化芸術を通じた人とのであり

や交流のある場所、これは大きいと思います。市民がイベントに参加したり、開いたりするなかで、新しい人との出会いを作る場。これは生涯学習コーディネーターがたまぐセンターでいいものができて、面白いものができて、こんなことができるのかとびっくりするようなことが毎年起こってますそんなことがホールでもできればいいなと思います。4番は賑わいのある場所、前にも出ましたが、居心地がいい場で、イベントが無くても市民ホールに来ることが目的となるような、あそこに行けば広い広場があって、芝生があって、屋上に行けば見晴らしがよくて、そのようなものがあればいいなと思います。とにかく市民が気軽に訪れて集える、憩いのになればいいなと思います。ホールに行くとイベントが合っ、聞き行くとか見に行ではなく、市民ホール自体が目的の場所になるといいなと思います。5番目が育てる場所ということで、先ほど、若い、未来にはばたく芸術家の育成もありましたが、市民の市民の芸術文化に対する、意識を高める場で、長い目で見て、市民を鑑賞者として育てていけるようなプログラムが組めるといいな思いました。俺は文化はわからないとすぐに青梅の人は言いますが。そうではなくて、とにかく一回聞いてみてくださいよと言いますが。それと生活の中で、音楽や演劇などの舞台芸術に触れることがあたりまえ、それと触れ合える市民ホールがあること自体が自分の生活を豊かにするということを育てる。何か特別にあそこにすごいものが建ったけど俺には関係ないではなくて、市民ホールと市民との関係づくりを大切にしていければいいのではないかと思います。それと、青梅の未来を作る若者や子供たちの文化芸術に触れて感性を磨く場。遠くまで、音楽界や演劇を見に行くチャンスが無い方もいると思いますので、そういう場になるといいなと。それと文化的な活躍をする場ということで、学校との連携もあると思います。校内の合唱コンクールであったり、青梅は小学校、中学校で吹奏楽が盛んに行われていて、全国大会で金賞とったりしたこともあります。そういくものがあるのに、市民は誰も聞いたことがない。発表する場がないので、聞いたことがない。噂では聞いても。そういうことをやるようになればいいなと思います。それと舞台芸術の鑑賞会ですね、子どもたちを対象にしたものができればいいなと思います。それと今、たくさんの方がやっているバンド活動やダンス活動そういったものの発表する場を提供する。一番下に青梅児童合唱団と西多摩子どもオペラとありますが、これは私がやっているもので、児童合唱団が45年、にした子供オペラが2年間空白がありましたが、今年再開しています。最初はオペラはわからないと、だったのですが、たくさんのお客さんが来て、今年も40人くらい12月に向けて6月の頭から練習してます。これは西多摩ですから、青梅だけでなく、羽村ですとか、昭島、五日市線沿線

の子どもたちもいてそういった活動をしております。それが私の市民ホールへの想いです。

次ですが、市民ホールにほしい機能、これはだいが具体的に文化団体連盟から出てまいりました。舞台や舞台回りで、とにかく十分な舞台の広さ、間口が8間、奥行きが8間ぐらいあるといいよねと、前の市民会館は狭くて、舞台袖もほとんどありませんでした。客席から舞台袖がみえてしまう、そのようなこともありました。舞台の裏が行き来できず、いちいちロビーまで出ないと上手と下手に移動できないことがありました。洗面台付きの楽屋、シャワールームがあると素敵と出ました。あと、スタッフルームがほしいというのがありました。今、たまぐーに多目的ホールがありますが、階段をおりないと楽屋がなく、衣装を着たお年寄りが行き来してかなり厳しい。楽屋からステージに行くときも、待機場所は一般の人がいる廊下となっていて、大変な状態です。先ほどもありましたが、いい催し物やるには、きちんと配慮された音響、反響版もそうですが、照明設備。市民会館は最初は反響版はなかったのですが、音楽やるのに反響版がほしいといったら、市のほうでつけてくれました。それから、十分な数の吊りのバトン、緞帳や案天幕とかオペラカーテンとか、舞台転換で効果的に行うものがあるということなので、このようなものが希望として出ていました。それから、舞台までの同線を配慮した搬出入口ですね。市民会館では細く狭い坂道で車が入れず、道路にトラックを止めて、そこから搬入を行う。そのようなことになっていました。それから2番として客席ですね、鑑賞の環境が整っていることはとても大事だと思います。座席数は700~800が一番多かったです。例えば1階が600で200ぐらいバルコニーや2階席で、羽村のゆとろぎがそうでして、普段は2階は使わないで1階だけでやっている。市内の中学校の合唱コンクールをやるときにどの程度の人数がいるのかわからいですが、それができるといいなと思います。視界がさえぎられることなく舞台の端までみることができる環境ということで、平土間ですと、舞台の奥が見えないというのがあります。舞台に集中できる座り心地がいい椅子。小さいお子さんを連れて参加できるように親子室もありますね。それから当然ですが、車いすの席も必要だと思います。最初私たちも平土間はちょっととしてひな壇式がほしいと言ってきましたが、最近、技術の進歩で固定席と同等の音響性能を持つような可動式の多目的ホールがあちこちで、出来ているとの話も聞きました。その実態ですとか、建設費用、コストもそれを整備点検する費用も掛かるですとか、メンテナンス期間として1年に数週間はメンテナンスのために使えない期間があるとか、教えていただけるといいなと思いました。3番ですが、リハーサル室がほしい、これは舞台活動を支えるために絶対に必要

です。4番としては、ホールとは別にコンベンション機能のある部屋がほしいと、ホールと兼用にしようとするから難しいので、先ほども出ました、閉館となったスイートプラムは宴会場や結婚式もやりましたが、文化団体連盟の春の総会などもやって、200人くらいはいりますかね、それがなくなりました。会議や宴会の開催が可能で、西多摩地区での利用が多いとのことですので、そういうものも必要かと。ただ、多機能型にして、舞台仕様の催し物と平土間仕様での催し物と日程がバッティングしてくる可能性があって、このへんがどうなのかと思いました。5番目として今建てられました、文化交流センターに足りない施設を保管してほしい。我々、音楽団体は釜の淵市民館で音楽室とか研修室で200人くらいは入れる広い部屋が2部屋ありました。たまぐーにはなく、多目的室は広いのですが、使用料が高いといったことがあります。それと市民会館にあった、書道や絵画が展示できる機能がある部屋がほしいと意見がありました。作品を展示できるピクチャーレールやライティングレールなど使う人がこれでいいとお墨付きがでる、本当に使えるものがほしい。5番ですが、ここが協調したいところですが、来ることに意味がある、青梅らしい青梅にしかない市民ホールにしてほしい。周りにあるようなホールと同じものを作ってもしょうがないと思うんですよね。催し物がなくても行ってみたいような、素敵だよねと。羽村のゆとろぎは屋上庭園やホールの入口に木の階段状のところがありまして、そこに色々な人が集まって、楽しんでます。そういったものがほしいと。青梅の木材を活かして趣のある空間が演出できないか。それから奥多摩の山々が観望できるロケーションにあるので、自然と一体感のあるロビーにできないか。建物の外や中、屋上とのつながり、文化芸術に触れることに期待をもたらすエントランスやロビーやホワイエ。建物を取り巻く、広場や屋上庭園など人々が出会えたり、憩える場所がいいではないか、市民ホールに行くとなにか面白いものがやっていたり、参加できたり、ただ観客として行だけでなく。市外からも人を呼び込める、質の高いレストラン、さきほど、繭蔵とか色々でましたが、今、コロナで結構青梅のレストランとか出るんですね。先々週、繭蔵に昼に言ったら、人がたくさんいて、お待ちくださいという状況でした。魅力あるものを作れば人は来るのではないか。昔、河辺の先にももたろうというお店がありまして、下に入って、奥多摩の山が見えて、ピアノが置いてあってコンサートなんかもできて、ちょっとしゃれた空間で、そういったところで、それが目的で遠くから来てました。中途半端なレストランを作ってしまうとだれもこないと思います。あそこに行くとおいしいものが食べられる、景色がいい、夕日がきれい、行ってみたいと思えるレストランがあるといいなと思います。希望する備品としては、コンサート

	<p>グラフ、ピアノ、フルコンサートサイズとセミコンサートサイズ。フルコンサートでスタインウェイかヤマハと、少し小さめのセミコンサートサイズが2つあると使いやすいとの意見がでました。あとグランドピアノの移動用の台車、湿度調整可能なピアノ保管庫、市民会館はこれがうまくいかず、ピアノがガタガタになっていました。十分な台数の平台、演題、常駐のプロの舞台、照明のスタッフ、これは是非いてもらいたい。今たまぐーは基本的には照明や音響は自分でやるとなっているが、お年寄りには使えないのです。その他として、青梅市民館や釜の淵市民館と比較して今のたまぐーセンターで不足している、不備がある、施設や設備を洗い出してみる必要があるのではないのかなと、たまぐーセンターには多目的室以外に広い部屋がないところ、使用料が高いとか、慢性的に駐車場が不足していて、止められないことが我々しょっちゅうあります。市民会館で使いづらかった施設、設備を洗い出して、そうならないようにしたい。駐車場もですね。とりあえずここまでで。</p>
<p>会長</p>	<p>次回のワークショップもこれに基づいて話し合えるとは思いますが、この想いの部分について、今日はもう少し共有して行きたいなと思います。新しい市民ホールに対して様々な意見を持っている方がいらっしゃると思います。今の意見は文化団体が中心なので、文化の部分が強く出ていますが、市民として違った角度で想いもあるのではないかと思いますので、後半のディスカッションにしていきたいと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>ありがとうございました、具体的な提案なのでイメージがわきました。副会長が白いところにはどんなようにどのような人が住んでいるのかとありましたが、私はこの地図に青梅の市民センターと自治会のエリアみたいなものを重ね併せて見れば良いなと思います。自治会館はこんなこと簡単にいうと自治会の人に怒られますが、自治会館は地域の大事な施設だと、自治会の人だけのものではないと思っています。自治会館もあり、市民センターもあり、青梅市内は土地があるので、みなさん拠点を持っている。実はこの空白の地域のところに市民センターがあって、コーラスをやっていたり、白い空間の上の真ん中で毎回やっている大正琴のチームが華やかな衣装を着て、演奏にいらっしたり、その地域その地域で人々が住んでいますし、先ほど言いました、バスがないので、私もだいが高齢になってきたので、不安なので、バスがなくて、運転出来なくなったら、私はどうやってたまぐーに行くのか、ホールまで出かけるのか、そうすると近所の人としか付き合えなくなる。先日も、夫が民生委員をやっていますが、電話がかかってきて、千ヶ瀬に住んでいるのだけど、上まで上がれない。そうすると高齢者が集まっている場所</p>

	<p>はどこなのか調べてみると、ないと言われてまして、その問合せがあって、よく聞くと、高齢者が集まっている場所はあるのだけど、そういった人たちにできる文化ホールがソフトとして発信、波及していくアウトリーチしていく、そういった役割が果たせたら、いけないと思っている人たちに届けることができると、私が年取ったときには来てくれるといいなと思います。施設のありよう、施設が文化を発信することができるホールにできないかと思います。その辺を重ねると市民センターで色々なことをやっていることと、行政サービスの拠点としての位置がその関係をつくれるのではと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。少し自由にご発言をお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>少し、ホールへの想いというよりは、ほしいファンクションの中で、私の仲間と話しているなかで、こんなものがほしいとでているのが、コミュニティ FM、FM局を作れないか。以前、民間で作ろうとしている方もいらしたので、そういった方も入れていくと、可能性はあるのではなかと、今回の文化施設の中に事務所、スタジオを作りこむ。箱が出来てしまえば、中身の機材はだいが安くなっているので、作るのはどうにかなる、問題は運営するのにスポンサーを集めるのが、一番大変なのですが、そういった情報の発信の手段として、CFMはつくれないかと仲間から提案がありました。これからの話合いの中でいれていただければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>賑わいのある場所に関連しますが、大学で都市政策を学んでいますが、色々なところに見学とか行きますが、行政主導で作る施設はまちに開かれている部分が少ない施設が多くて、商業施設が奥に行ってしまったたり、例えば豊島区では区役所がビルの4階以上あって、意味が分からなかったり、その中で、ホールもいらないよねとの意見もある中で、ホールを作るのであれば多少まちに開かれた状態で、誰もが出入りしやすいようなホールが目指されるべきなのかということがあって、ここにバンド活動やダンス活動の発表の場とありますが、中学生とか結構ダンスやっている生徒も多いです。高校になると文化祭があったりとかで、バンドの練習もたまに聞きます。そうすると、高校生や中学生の活力をこのホールへもっていきたい。そのためには、従来型のホールは入りにくいイメージがあるので、例えば、入口に広場があったり、交流できるスペースがあれば賑わいも生まれると思います。</p>

会長	<p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>委員からの説明を聞きまして、非常に緻密に出来ていまして、このように出来たら素晴らしいと思います。まずはこの想いに対する意見ですが、青梅の皆様がこのホールに期待しているのはこの懇談会で思うのですが、この過程で、皆さんたちが使うことに関する価値、そのためのホール、使えるクオリティの高いホール。もう一つはここに書かれてはいませんが、そこにあり続ける、私はこのホールを持っているという価値もあるではと思います、ヨーロッパのホールはこの2つ目の価値の方がはるかに大きいと思います。そういったホールは来ることが目的となるホールというか、来なくても価値のあるホールにつながると思います。そういったことを木を活かしてホールを作るというか、私もその方向性が最も青梅にしかできないのではないかと、そのホールを何百年も使うと、数十年ではなく、そういったホールを目指していくこともあり得るのかと思います。先ほど3種類のホールの例を上げましたが、3番目になります。どうしても現代の技術で行くと数値で表せるような音響の位が必勝となってしまいますが、そうではないホールでいいクオリティのものを作っていく方向性があるのではと思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございます。 今まで、ホールをあまりご利用されたこともない委員もいらっしゃると思いますが、もし、こんなホールだったら、行きたいなとか、借りて使いたいなとか、大ホールでなくても、もう少し手ごろな所でイメージがあればお願いします。</p>
委員	<p>私は普段、車で移動するのが多いので、駐車場がきになりました。何百台とめられるのかわかりませんが、平面や立体なると思いますが、例えば、立体になる場合はエレベーターが付くのかと思いますが、その時にエレベーターの脇にお手洗いがあればいいと思いました。 後は、市民ホールを使う人と使わない人とでもいいですが、使える駐車場であればいいなと思います。</p>
会長	<p>他の委員はいかがですか。</p>
委員	<p>青梅にしかない市民ホール、いまの木材を使ったビルなんかがありますよね、一番いいのは木材を活かした趣のある空間を演出して、他所からきてもそこで鑑賞して、観光に回れるようなそういったものを建てた</p>

<p>会長</p>	<p>方がいいのではないかと思います。あとは道の駅みたいなものも作ったら楽しいのではと思います。</p> <p>ありがとうございます。前回からもマルシェ機能やショッピングなんかもできると、文化芸術と、深い関係がない方も楽しめたり、今、観光との結びつきも出ましたが、色々な要素が入ってくると思います。</p> <p>運営についてですが、立派なホールであっても、先ほどの市民協働の要素とプロの専門家がいるといった安心もあって、やはり、それになれた人がいないと、高齢者のかたや子どもたち、あるいは障がいを持ったかたと一緒に音楽やダンスをやるのは簡単なようで、素人では難しい要素があると思います。そういった意味での人材の問題ですとか、プロの音響が常駐してほしいとありましたが、様々な要素があると思いますので、全体の見通せる文化行政の人もいれば、現場でそれぞれの技術をもってやる人いると思いますが、ポイントだけご説明できますか。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほど申し上げたとおり、市の、行政の中に芸術文化を受け皿になってもらえる部署がほしいというのがまず第一です。実はこの前、都から青梅市に文化のことで問合せがありました。市役所でだれも受けられなかった、それで、文化団体連盟の会長に連絡があって、そっちに回ってきましたが、会長は書道の方なので、それ以外のことはわからない。そうするとだれもなにもわかっていないことがわかりました。これはまずいので、やっぱりそれが一つと、ホールを運営するときに、市民会館もそうでしたが、青梅市民センターと兼用だったので、市役所から文化的なことをまったく考えてこなかった、税金を扱っていたり、水道をやっていた方がいきなり館長さんになって、わからなければ聞いてもらえれば答えられるのですが、何がわからないのか、わからない状態だったので、非常に滞ったことがありました。人柄で、積極的に聞いてきた方は色々なことができましたが、そうではない方がこられるとそうなっています。ですので、市民協働あるいわだめなら NPO などもあります。ここではこんなことができるのではなか、たまぐーのコーディネーターのような方をおいて、市民協働でプログラムなどを考えていく必要があるのではと思います。やっぱり市役所から来られたかたが事務室にいて、だれか借りにこないかとまっている状態ではもったいないと思います。前の市民会館の稼働率がでましたね、非常に低い、当たり前です、待っているだけでしたから、それではだめですね。そういったものを企画していけるそういった意味で市民協働を出しました。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p>

委員	<p>この運営等々についてご意見あると思いますが、次回もやりますが、大枠な部分でご意見ありましたら、お願いします。</p> <p>前に、一番最初かと思いましたが、富士見市の話聞いたときに、市民からでた委員会だとか、運営も市民と行政が一緒になってやっていると聞いて、パフォーマンスをやるにあたって、決して、ホールだけでなく、周りも使ってやっている、ああいうのは市民協働だから出る発想ではないかと思いました。あれを見て、そのまま受け入れるわけには行かないかもしれませんが、そういったものもあるのは非常に興味深いと思いました。</p>
会長	<p>副会長、キラリでの市民協働とそれプラス専門家についてももう少しお話いただけますでしょうか。</p>
副会長	<p>一般論というよりは、自分がずっと劇場、演劇の世界で働いてきたので、あくまでも専門家の考える運営方針や、プログラム内容があって、それに基づいて、ご一曲というのが自分の場合は原則でやってきましたが、皆さん言っていました、市民に色々なものを届けていくとか、参加してもらうということが、あらかじめ立てる方針であったり、プログラムの内容のなかに、入れ込んでいくって形ですよね。鶏が先か卵が先かのような話となりますが、青梅市の文化的な財産をさらに発展させ活用していくためには、そのこと自体、重要で重視していくとともに、活かすための方法論も必要ですよね。なので、専門性と市民のパワーが両立していることが重要で、施設の側がそういうことを専門的な施設として両立させるようなノウハウをもってないとまずいのかと思います。</p>
委員	<p>私もお聞きしたかったのですが、ホールの専門性では一時期、芸術監督がはやりましたよね。実演家の方たちがやるといったことで、でもそれだけじゃないってどんどん変わっていると思うんですよ。ホールにいるべき専門性っていうのが、どういう中身なのか、専門的でない、市民の人たちわかる中身をお聞きしたいと思います。</p>
副会長	<p>先ほど、ホールが閉じてるとのお話がありましたが、実際に閉じているという部分もあると思います。ただ、それは専門性で閉じこもっていることもあるんですが、外から見たイメージもあると思います。あるいは外側の人々がホールの活用方法を知らないといったこともありまして、専門性といった議論になると、専門性とそれ以外の市民性といったものに二分されるみたいなところから話が始まったり、お互いにそのイメー</p>

ジを持ったり。それを越えるという発想が必要な時代になっていると思います。今の質問はそこにおいての専門性はなにかということかと思いますが、実は、演劇をやっている側の専門性も歴史的に長く考えると、ずいぶん狭い範囲にはまり込んだ専門性に陥っていなかとの疑問は専門家の側にもあるべきだと思います。例えば比較して、キラリふじみでやっている文化活動、芸術活動と青梅でやっているお祭りを単純に比較すると。どっちが持っている訴求力や、市民に与える力が大きいかと、青梅でやっているお祭りのほうがはるかに持っている力は強いと思います。そうやって考えるとそもそもの演劇の持っている専門性も一番、出発地点で持っていたものも青梅でお祭りが生まれて、色々なひとが芸能活動をやっていることと根っこは同じなんですよね。でも、今、劇場やホールの専門性はだいたい100年ぐらいでホールの中で自己完結する専門性に話が狭まってきているということで、私のようなすこし変わった劇団で日本全国で色々な人たちや市民の人たちにやってきた経験をもっていたり、あるいは海外でも劇場の活動や演劇活動をやってきた人たちと一緒に仕事をしてきた経験からすると、演劇や劇場はもっともっと広い範囲に大きな機会を提供できるようなソフトパワーや場としてのパワーをものだと。今の質問にパツと答えられず恐縮ですが、新しい文化施設をまちとつなげて市民の人たちを巻き込んでいく、あるいは市民の人たちの交流をもとに色々なものを作り出していくときに、少し広い概念で、ホールの専門性を捉えられる人達が運営に当たってることが重要だと思います。今までの文化条例を作るですとか、非常に重要なことだとは思いますが、そのときに、一番最初の入口になるのは、青梅市、青梅の市民にとって、文化とか芸術とはどのように自分たちの人生や生活の糧になるのかと、文化芸術の概念規定をまずしていくことになると思います。青梅市の文化芸術、文化的なことはなんなのかといったことを議論して深めていくと。今回は色々なことがあって、新しい施設の計画と条例づくりのようなことがリンクしていけるかわかりませんが、ここで出たアイデア、色々な意見がありますので、ここでは具体的なホールの専門性を話していきますが、青梅市の文化とはどうあるべきなのかと議論が平行していると、もう少しホールの狭い意味での専門性に閉じこまらないで、市民の人のニーズを巻き込んでやってけると思います。

委員

ありがとうございます。一番聞きたかった専門性の部分です。他の市民の人たちと話す文化ホールが建ったらどういった人いたらいいか、そこにどういった人のイメージがあるかっていうと、あそこにすごい実演家がいるとか、素晴らしい美術家がいるとか、そうではなくで、文化

<p>副会長</p>	<p>が人々にとってどのような役割を果たして、それが、まちを人を豊かにして繋いでいくものだという概念を皆さんと広げられるような形の専門性を思っていたので、専門性とおっしゃったのでどのような専門性でいってくださるか期待しておりましたが、期待通りのお答えでした。</p> <p>先ほど委員がホールの選択肢が3つあるとの中で、100年先も使っていけるホールのご発言がありましたが、思ったことは新しい施設に市民の方が来て、何かやる時に、何が基本になるかと考えると、青梅市民にとって大切なものが文化施設に行ったら共有出来たり、発展出来たり、外から素晴らしい文化的をもってくることもあるとは思いますが、やっぱり青梅の人たちが形作って、現に保ち続けている色々な意味での文化的な資源、芸術があったり、そのようなものをこの施設で発見したり、作り上げてたり、共有することができるということだと思えます。それが出発地点かと思いました。</p>
<p>会長</p>	<p>一言、私からも触れていきます。やはり、このホールが何を指すかによって、想いを反映できる人の中に専門的な視点を持った人も必要になってくると思えます。本当に素晴らしい本物の芸術や音楽を聞いたり演奏したりするときに、音楽監督という言葉がいいかわかりませんが、オーケストラと交渉できる人や色々な人たちが必要になると思えます。一方で、市民の中から文化活動をしている人を育て上げたり、市民が主体となってやっているものを繋いだり、支えるようなファシリテーター的な応援していく人が必要となるケースもあると思えます。個人的には、どのようなものでもいいかありますが、選択するのは市民であり、この懇談会の中でもその決定はしませんが、方向性は示していきたいと思えます。いずれにしても、市民が主体といいながらも市民の主体性を活かしたリーダーという大変ですが、サポーターと言いますか、そういった能力を持った人が施設には必要になると思えます。ただ、もう一点触れておきたいのが、今想定される、施設、ホールの規模が数百名規模のものになってきたり、舞台機構等々も含めてきますと、たぶん、市の直営では無理でしょうね。市に専門部署を作ってもそういった職員を公務員にすることは無理でしょうし、市の方はチェックできる経験者は必要だとは思いますが、他方で指定管理者制度等を使わざるを得ないでしょうね、指定管理制度がどうのこうのとなると専門的になってしまうので、別にしますが、そういったものを運営している人達を何らかの形で契約なり、雇用するなりして、そういった人たちに一定の役割を担ってもらうようになると思えます。したがって、ここに挙げられているよう</p>

	<p>なことができる人たちが雇用されている事業体を選ばざるを得ないと思います。たまぐーセンターの規模ですと市民が中心になってコーディネーターが間に入ることができるわけですし、そのためには、展示や照明も全部自分でやることとなりますが、数百名のホールとなりますと自分たちで音響をやることは不可能ですので、音響の専門の方がいて、注文を出せばそういった人がやってくれる、照明もやってくれるような組織体が暗黙で前提になっているのではと思います。このあたりについては、今後、懇談会で出た意見をもとに、どのような運営あり方が必要なのか、あるいはたまぐーセンターの延長で、もっともっと市民が自由に使えるようにしたほうがいいのではといったことを話し合えればいいと思います。</p>
委員	<p>参考になるかどうか、年明け早々に兵庫県の多可町というまちのホールに行ってきました、姫路から車で1時間半程度なので、都心から見ての青梅市ぐらいです。そこの音響さんと話をしましたが、常駐ではないそうです。必要に応じて姫路から通っています。そういった運営方法もないことはないなど。最初に打合せ程度で音を出すのは小屋の人がやってくれる、そのような形での運営も出来そうです。それが一つアイデアとしてあります。それともう一つ、新しい本を読んでいたのですが、この言葉いいなと思った言葉がありました。自治体が準備すべきなのは、肥沃な土地、栄養たっぷりの土地だと、それを耕して実らすのは市民がやるよと、そんなイメージなのではないかと思います。市民ホールが何をやるにも栄養たっぷりの土壌としてできてくれれば、後は市民が育ててくれるのではないかと私は見えています。</p>
会長	<p>次回の議論の種になる意見が出てますが、追加できる意見や要望やコンセプトとして想い、このようなホール、自分ならこういった活動をしたいそのためにはこういった施設がほしい、こういった人がほしいといったことになるとは思いますが、いかがでしょうか。</p>
副会長	<p>さっきの話の続きになりますが、100年、200年、新しい施設がこの財産になるときに、パッとイメージ浮かぶのが、イタリアやドイツのように何百年もまちの人々に支えられて息づいているような劇場ですよ。それは市民の人たちがこれは自分たちの文化そのものだっていう、劇場に行って見るものも外から入ってくる素晴らしいものばかりではなく、自分たちの姿そのものが劇場で体験できるというか、それを発見できるかということだと思えますよね。青梅の話に戻しますと、ここで、文化芸術を考えたときに、私は外側に人間なので、好き勝手いう</p>

会長

ことになります。長い年月、青梅で営われてきた商業であるものも視野に入れていいのではないのでしょうか、農業も視野に入れていいのではないのでしょうか、そこから芸能も生まれて、大風呂敷なんです。例えばさつき、素晴らしいレストランを持った方がいいという意見がありました。それが突然、まちの外から入るより、先ほどから話がでていた、旧市街地の中心部で若い人たちが色々な新しい起業が始まっている意見がありました。そういったことと結びつくような可能性を持つというためには、新しい施設での文化・芸術の概念が薄まって広がるというよりは、根付いた形で市内の様々なものを吸収できるような開放性というか間口を持っていたほうがいいのではないかと思います。そういった中に、意見があったような様々な合唱であったり、青梅市の中で重要な近年の歴史であると思います。そういったものもちゃんと収まっていると。

他にいかがでしょうか。先ほどコミュニティ FM の話ができましたが、私もインターネットや SNS だけでなく、放送はとっつきやすいですし、防災など様々な要素も含めていいと思います。コロナ禍においても静岡の県立劇団は公演ができなくなったので、インターネットで youtube なんかもやりましたが、それだけだと、やはりお年寄りが目を向けてくれないといったことで、地域に行ってコミュニティ FM で教科書に書いてあるようなお話を俳優たちが物語風に話をして、授業を面白く見せるということで、非常に好評だったと聞いております。電話を使うこともあったり、アナログの通信機器を使ってみたみたいですが、コミュニティ FM を置くことじたいにお金はあまりかかりませんが、誰が運営して面白くするか重要で、若い人など様々な人が参加して運営していく。はっきり言ってしますと新しい施設でなくても空き店舗を使ったりしてもできますよね。様々な使い方があると思いますが、伝統的な文化も重要ではありますが、これから 10 年 20 年 30 年経つと文化の状況もかなり変わって、例えば若人たちでいうダンスはかつては女の子はやりましたが、男の子ほとんどやらなかつたのですが、時代によって変化することを含めてどのような文化を青梅から育て上げていくか。そのようなことを次回のワークショップで話すとイメージが広がるかと思います。

今日、様々なお話ができましたが、特に想いとして、ホールに期待していくのか、このホールで市民が文化芸術を想像したり、出会ったり、人と人との交流ができ、賑わいの場所となり、そこで人が育っていくような場所作っていきたいということで、もう少しこのような要素を加えたほうがいいなということで、議論ができたと思います。次回は今日で話を組み立てて行く中で、副会長と考えております。副会長は演劇関係

でワークショップをされている経験もありますし、そういったところも含めて、今日の話をもっと細かく、市民委員のかたも慣れている人が話すと発言しづらいこともあるとおもいますので、ワークショップの場合はグループで気楽に話せると思いますので、今日欠席された方も含めて意見を出していただき、それをもとに6回目、7回目にはアウトプットとなる提案書を作っていきたいと思います。提案書のイメージとしてまだ固めてませんが、今日委員が出されたものにイメージとしては近いと思います。まず、ホールの想い、このようなホールであってほしいとコンセプトを考えます。その中で中心になることは3つぐらいありまして、一つは市民の文化芸術の鑑賞や発表、体験であったりするような、市民会館の代替として作っていかなければならない。2つ目が場所が市役所のとなりであり、旧市街地と新市街地の結び目であったり、行政サービスの場であったりします。そういった意味においては文化芸術に関係ない人も含めて色々な人たちが交流して、そのためにはレストランや展望のいい眺めが必要になったりするのでしょうか、そのような賑わい、交流の場として、青梅の新たな文化の方針を作り上げていくような意味があるのではないかと思います。3番目に青梅らしさを強く打ち出して、他の地域にないようなものを作っていくということで、木や緑や自然や水などのキーワードがあったと思います。他には文化的な伝統でレトロやお祭りなどの青梅らしさを盛り込むこと、この3つが軸にコンセプトがまとまるのかと私自身はイメージしています。そのうえで、コンセプトを活かすために、どっちが先かわかりませんか、大きくホール系と、ホールに複合される施設。ホールは規模、形態、付帯設備など、本日、委員から提案のあったものなど、すべてとなるとまたお金がかかってきますので、コストとのバランスも含めて、優先順位をつけて、述べていく。複合すべき施設もあれも欲しい、これもほしいになってしまうので、例えば、福祉センターにあった設備など、最低限必要となる設備を考える必要があると、その時はたまぐーセンターとのすみ分けもポイントになると思います。ソフトに関しては、そういったものを運営するために、そこで行われる事業のイメージはどのようなものか、運営していくための人材や組織、そういったものを保証する上での行政のバックアップ。こういったもののなかに運営予算なども固めていく必要があると思います。そして最後に委員の意見にもあった、条例の話ですね。こういったものをきちんと遂行するために、条例がいいか、計画がいいか、ビジョンがいいかわかりませんが、今の時代、何らかの形で行政の中で方針があって、青梅の目指す文化が目指すものをきちんと作っていく。ただし、条例等までの話はこの懇談会では付帯提案的な形でつけていくのかと大きく4章ないし5章程度の報告書にまとめ上げていこう

<p>委員</p>	<p>と思います。次回のワークショップで意見が出た後に、残りの2回で構成案の内容について意見交換をして、9月ぐらいに報告書を提出して、懇談会の仕事を終わらせたいと思います。</p> <p>今の進め方に対しても意見があればお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>9月以降は市ではどのように考えていますか。</p>
<p>委員</p>	<p>9月を目途に報告書をいただけるとのことです。翌月、10月から新年度の予算積算の事務が入ります。タイミングとしましては、皆様からいただいた意見を形にしていくには、構想よりも具体の構想案を構築する中でもお金がかかってきます。そういった中の予算を考えていくようになると思います。それが10月以降、令和5年度の予算になりますが、これは市長とも相談となりますが、もっと急げとなれば、今年度内の補正予算として、事務方としてもスピードアップして、皆様からの貴重なご意見、ご提言を速やかに形にしていくけいるように、市としても事務的な手続きについては考えております。</p>
<p>事務局</p>	<p>色々な所に青梅の木材を使う意見が出てますが、市にお願いがあります。木材を使うには切り出して、1年なりシーズニングが必要になると思います。であれば、そろそろ、材木を切り出す算段をして、シーズニングの検討をお願いできますでしょうか。</p>
<p>会長</p>	<p>青梅産材の使用につきましても、貴重なご意見として、前向きに検討いたします。</p>
<p>委員</p>	<p>それではその他でお知らせありましたらお願いします。</p> <p>この間、色々な文化団体とお会いすることがありまして、クラシックの方や伝統芸能の方など色々な人との付き合いの中で、たまぐーで3年間コーディネーターをやってきましたら、文化に関する感覚や、感じ方がまったく人それぞれで、青梅の中では祭りこそ文化だという人がいて、その人はクラシックのことをいうとわからないと言って、それじゃあ困る、どっちも文化だと、文化ってなんだろうと、色々な人が集まって話してみようと。そこから喧嘩が生まれるかどうかはわかりませんが、この会での約束は相手を否定しないとの約束事の中でやっていきたいと考えております。文化はあなたにとって何なのか、青梅の文化って何なのかそういったものを市民が集まってやってきたなと思っていて、たまぐーのコーディネーターの2人、ひとりはマイナー堂という、</p>

	<p>長いこと青梅でレコード店をやっていた店長さんですね、彼がたまぐーにかなりの日数いることが人々を活性化させてつなげていることがかなりの要素であります。それから、市民会館が愛されたのはそこに石坂さんという青梅の文化関係誰もが知っている舞台のことで頼めばという人がいて、そのような人たちが繋いでくれたものがあるので、それをみんなで出し合ってやっていこうと思います。5月にやりまして、次に7月、そして9月とちょうどこの懇談会の報告書があがるころに、こちらでもこんな話が出ましたというのを一緒に報告できるようにできたらなと思っています。</p> <p>今日、参加していただいているかたも何名か参加してくださいませし、青梅宿をやっている方、舞台芸術フェスティバルをやっている方、市の職員も何名か参加してくださいませ、市議会議員も参加されますので、絶対にお互いのやっていることを責めない、攻撃しない約束事で、青梅の文化についてみんなと楽しく語りたいと思いますので、皆さんの参加していただければと思います。</p>
会長	私も参加したいと思います。
委員	事務局にお願いですが、議事録の作成と、開催日の日程について直前でなくて、少し早く対応をお願いします。
事務局	<p>次回以降、きちんと気を付けて対応させていただきます。</p> <p>次回の日程は6月の下旬頃にて調整させていただきたいと思っております。この会議後に日程調整をさせていただきますして、可能な限り参加者が多い日で調整させていただきます。</p>
副会長	<p>ありがとうございました。4回目ということで、前回から間が空きましたが、4回参加させていただいて、その間も打合せをさせていただきまして、冒頭に会長からお話がありましたが、このホールに対する市民の皆様に非常に注目されている、大切に思われていることを体にしみこむ形で理解できるようになりました。こういった会議でこれだけの方が傍聴にいらしたり、議会で議論になったり、これまで色々な経緯があったようですが、本日も委員さんのほうから別のワークショップのお話があったり、ここまで開かれた形でみんなが考えを持ち寄ってそれを組み合わせながら展開していくのはなかなか稀有な進め方ではなかと思います。紆余曲折ありますが、一歩ずついい形でゴールに向かって進んでいると今日改めて思いました。お疲れさまでした。</p>